

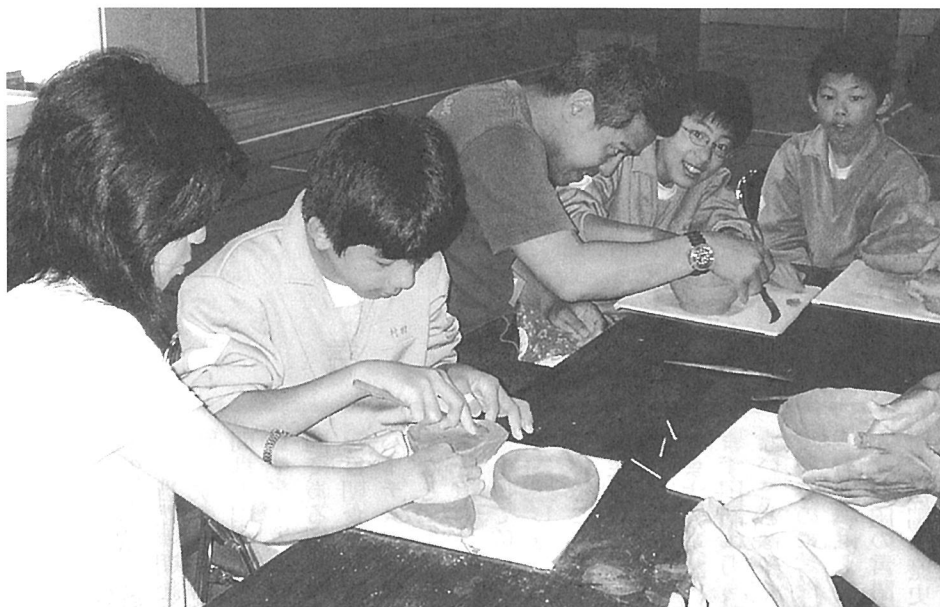
福島県PTA連合会会報
第70号_H18.07.15

P T A ふくしま

第 70 号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

親子で活動



「親子陶芸教室」

【提供 原町第三中学校】



「奉仕活動」

【提供 原町第二中学校】

《主な記事》

- 県P連会長あいさつ・新役員紹介 P2
- 第41回広報紙・学校新聞コンクール受賞校紹介 P3
- 少年少女の翼に参加して・小中学校別懇談会概要 P4
- 東北PTA連合会郡山大会案内 P5
- 事務局から P6

県P連活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA活動を

●県PTA連会長あいさし

当たり前前のごと



福島県PTA連合会

会長 宮本 孝

「当たり前前のごとを当たり前前にする。」今の日本ではそんなことも難しくなってしまったのでしょ

力の上を図るなど、地域社会・学校・家庭が一体となって、心身ともに健康な子どもたちの育成をめざします。

これら、いまさら言うまでもない本当に当たり前のごとです。しかし、今、家庭において、その当たり前のごとが行われていない家庭があるわけです。就寝時間を

とってみても、日本PTAが昨年行った調査では、小学生の五二・四%が十時ごろに就寝、一四・五%の子がそれ以降と答えており、当然、朝起きる時間は遅くなります。一方で、家庭での学習時間

は他国に比べ著しく短く、テレビやゲームに興じる時間は、長時間である傾向がみられます。また、毎日朝食をとる子どももほど、ペーパーテストの得点が高い傾向があるなど、生活態度と学力の相関関係も指摘されています。

そして私が職場などで若い人たちに感じるのが、国語力が低下していることです。それは、知識の不足や思考能力の低下につながっています。私には致命的な欠点に思えます。英語に力を入れる前に、まず国語に力を入れなければなら

ないことは多くの有識者が指摘しているのに、なぜ教育行政に反映されないのか不思議でなりません。自国の言語を思うように操れず、自国の歴史の知識を乏しく、道徳的な規範を持たない人間に英語力をつけたところで、国際化するとはとても思えません。

平成18年度 福島県PTA連合会役員一覧

Table listing PTA Union Officers for Heisei 18. Columns include: 副会長 (Vice Chairman), 監事 (Supervisor), 日本P評議員 (Japan P Councilor), 母親代表 (Mother Representative), 顧問 (Advisor), 理事 (Executive Director). Rows list names and their respective PTA branches (e.g., 宮本孝, 渡邊守孝, 片岡学秀, etc.).

第41回県PTA広報紙・
学校新聞コンクール
晴れの受賞校

◇入選

- 「おおいだ」(伊達・国見・大枝小P)
- 「りんどう」(二本松・安達太良小P)
- 「おおしま」(郡山・大島小P)
- 「たて山」(玉川・川辺小P)
- 「あさひ」(会津美里・旭小P)
- 「城北時報」(会津若松・城北小P)
- 「あげつち」(いわき・平一小P)
- 「いずみ」(いわき・泉小P)
- 「S A Z A N K A」(福島・平野中P)
- 「やまなみ」(伊達・梁川中P)
- 「みつぐり」(郡山・行健中P)
- 「あけど」(白河・白河中央中P)

第四十一回PTA広報紙・小中学校新聞コンクールは、平成十八年四月十九日福島民友新聞社で、福島県PTA連合会、福島民友新聞社主催のもとで審査が行われた。

応募作品は、PTA広報紙に百三十六点、学校新聞に二十点の応募があり、審査の結果、以下の二十三点が入選した。

【PTA広報紙の部】

◇最優秀賞

- 「せいめい」(福島・清明小P)
- 「大 樹」(いわき・平一中P)

◇優秀賞

- 「のだやま」(福島・野田小P)
- 「ひらの」(福島・平野小P)
- 「はちのす」(白河・白河二小P)
- 「あかね」(湯川・勝常小P)
- 「稲 蜂」(浪江・幾橋小P)
- 「白 雲」(福島・北信中P)

【学校新聞の部】

◇最優秀賞

- 「いだらぼっち通信2」(古殿町立大原小学校)

◇優秀賞

- 「横小通信」(金山町立横田小学校)

◇入選

- 「夢PART3」(会津若松市立湊小学校)



平一中「大樹」

いわき市立平第一中学校

「作り手が楽しくなければ、面白い広報紙が出来るわけがない。楽しもう。」を合言葉に、五人の広報委員がそれぞれのスキルを生かして取り組んだ、十七年度「大樹」でした。

今回の「大樹」の特集記事は、年度を通しての企画であり、三部的要素を意識して取り組みました。一つのメッセージを根底に、親子の問題を様々な角度から見つめることで、三つの記事にストーリー

清明小「せいめい」

福島市立清明小学校

PTA広報紙「せいめい」は、「とにかく読んでもらえる楽しい広報紙」を目指して取り組んできました。

カラー印刷が増える中、予算の関係もあり、従来通りのB4版単色刷りで製作しました。レイアウトを工夫したり、イラストを手書きしたり、文章の読みやすさを考え横書きにしたりと試行錯誤を重ね、かなり印刷所泣かせだったか

リー性を持たせることができ、皆さんには興味を持って読んでいただけのでは、と思います。

また、記事の特性から、多くの保護者、生徒たちの意見、考えを探る必要があり、「座談会」「アンケート」「投稿募集」と、様々な手法でのコンタクトを試みました。

これらの手法には、当然回収率などの懸念もありましたが、実際には、こちらの期待以上の協力と結果が得られたことに、正直驚き、感激した次第です。背景にはPTA広報紙に対する十分な理解があったという、理想的な環境が整っていたことも、実施する上での重

要な要素であったと理解しています。

このように、多くの方々に支えられて完成した「大樹」ですが、これは今後広報紙を作成していく上での必要不可欠な要素であり、さらに多くの読者の声を反映させていくことが、これからの課題でもあります。

今回、二年連続で、最優秀賞をいただけたことは、我々にとって大きな成果であり、励みになりました。ひとえに応援くださった多くの方々のご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

(広報委員長 門馬 茂弘)

むことで、分かりやすくなったと思います。

PTA広報紙も一生懸命作っても読んでもらえないのでは意味がありません。これからも読んでもらえる楽しい広報紙を作っていきたいと思えます。

最後になりましたが、昨年度優秀賞だった「せいめい」が、とうとう最優秀賞をいただくまでに成長して本当に嬉しい限りです。広報委員をはじめ、ご協力いただいた保護者の皆様、先生方のご尽力の賜物と思えます。ありがとうございました。

(広報委員長 佐々木香苗)

少年少女の翼に参加して

中学生の目

日中国際交流事業「日中友好少年少女の翼」に、今年は高橋康太郎くん(福島・蓬萊中)と畠 真紀子さん(福島・西根中)が参加しました。お二人に感想を聞いてみました。

福島市立蓬萊中学校
高橋康太郎

私は、春休み、全国から集まった九十五人の中学生とともに中国を訪問してきました。期待が膨らんでくると同時に、班のリーダーとして、日中友好の一員として、うまく行動できるかという不安も募ってきました。出発前夜、成田のホテルで結団式に臨みました。団長をはじめ、先生方、団員の日中友好にかけける強い思いに私も勇気が湧いてきました。

私がこの旅で、一番印象に残ったことは、「少年宮」訪問です。「少年宮」は、学力やスポーツに優れた人が選ばれ、さらに英才教育を受ける施設です。訪問した時、現地の小学生が先生から教えられたことを早く自分のものにしようと必死に学んでいました。私は、この熱気に日本と中国の大きな違いを感じました。日本では与えられることをこなすだけですが、中国では、自分からより多くのことを学ぼうと懸命です。自主的に学ぼうとする気持ちが、ここまで中国を発展させた原動力になっているのだと思います。

旅の中で困ったこともありましたが、「水」と「食事」です。日本では蛇口をひねれば容易に飲める水も、中国ではお店でミネラルウォーターを買わなければなりません。また、食事でも日本で食べる中国料理とは違って味が濃く、なかなか食が進みませんでした。

私にとって、あつというまの六日間でしたが、日中両国の良さ、自分がこれからしなければならぬ目標が見つかった有意義な旅となりました。

この日中友好がこれからも続くことを願っています。

福島市立西根中学校
畠 真紀子

中国へそこは、私にとって忘れられない場所です。本で読んでから、ずっと憧れていた国。その地に今、自分が立っているのだと思うと、不思議な感覚でした。バスに乗って道路を横切るだけでも、多くの人々が私の前を通り過ぎ、忙しく動き回っていました。時差が一時間だけの、日本とも近い中

国。地図で見た距離では近く感じても、ものさしでは測りきれない文化の違いが存在していました。

私が訪れた場所の中では、やはり万里の長城が印象に残っています。どこまでもどこまでも続く白い階段を上るたびに、積み重ねてきた歴史を踏みしめているように感じました。そしてたどりついた先に見えたものは、深く深い自然の風景です。日本においては、決して知り得なかつた景色。こんなにも美しいものが世界にあつたのだと、無意識のうちに感動で体が震えましました。

大きな自然の中で生活する中国人の心、その温かさを感じることもできました。身振り手振りを交えた私のつたない英語を理解しようとしてくれた中国の中学生。言葉以上に大切な所で、私たちは分かり合えたのだと信じています。「謝々」よく知られる中国語です。これはありがたのの意味で使われ、私は中国で何度もくり返して言っていました。言葉が分からなくても、「謝々」と言えば、そこから自然と笑顔が溢れるのです。「再見」は別れの言葉ですが、しかし、本当の意味は「さよなら」ではなく「また会おう」それは、永遠の別れとは違う、再会を約束しているのです。仲間との再会を待ちながら、私は今日も生きていきます。

第十四回県PTA連合会 小・中学校別懇談会開かれる

六月十九日(月)福島県青少年会館で、小・中学校別懇談会が開かれました。今年は、小・中学校共通テーマとして『父親のPTA活動参加の現状』と、小学校部会は「子どもの安全確保に関するアンケート」結果に見られる問題・課題への対応。中学校部会では、委託事業「父親の家庭教育参加を考える集い」三年次の取り組みと今後の課題の二点について話し合いがなされました。

【小学校部会の概要】

最初に、『父親の会』を設置している三地区のPTA会長さんから、会の趣旨や活動の概要について報告があつた。授業参観・懇談会等普段のPTA活動では、役員の構成からも母親のかわりが多い。そこで、父親自身も楽しい活動をしたいことや奉仕作業や力の必要な活動での父親の役割が重要であることから、会が結成されている。活動としては、校庭でのキャンプ、スキーやハイキング等であり父親の力が発揮され、子どもたちにとって楽しい活動が実施されている。今後、結成当時の会員も減り、新しい会員を獲得することが難しいとの課題も提示され、OB等子どもがいなくても会への参加を呼びかける等の意見がだされた。

また、会は組織されていないが、スポーツ少年団活動での行事等へ参加して取り組んでいる父親についての報告も出された。さらに、多忙な父親をPTA活動への参加を促すために、授業参観、懇談会、PTA役員会等と同じ

日に集中して取り組んでいる実践も発表された。

指導助言の勝見先生からは、「うつくしま教育改革推進プログラム」を基に、学力の向上と望ましい生活習慣の形成の観点から、これからは、より家庭教育での父親の働きが重要であり、PTA活動での父親の活動が求められるとの助言がなされた。

「子どもの安全確保に関するアンケート」の結果に見られる問題点と対応策については、小グループによる討議が行われ、その後全体会がもたれた。アンケートの実施の時期には、PTAとして安全への取り組みをしている割合が低かった。現在は子どもが被害に遭う事件が多く発生しており、各地区で子どもの安全な登下校を見守る取り組みが、PTA、町内会、地域ボランティア、お年寄りの方々の熱心な活動によって行われている。

指導助言の勝見先生より、「生命尊重」「今なすべきこと」「安全に完全は



小中別懇談会

東北連合PTA研究会郡山大会のお知らせ

水と緑がきらめく未来都市・郡山市で今年度の東北ブロック研究大会(県PTA研究大会も兼ねる)が開催されます。中核市に指定され経済県都とも呼ばれる郡山市の源には、市民に脈々と受け継がれている先人たちの果敢な「開拓者精神(フロンティアスピリット)」があります。本大会にもこの精神を反映させたいと考え、主題を設定しました。日頃の研修の成果と課題を持ち寄り、子どもたちの健やかな成長と幸せのために、望ましいPTA活動の在り方をみなさんと探っていきたくと考えております。会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

2 研修活動 (熱海小学校体育館)

生涯学習の視点に立った研修活動

3 家庭と小学校教育 (ホテル華の湯 飛翔)

家庭の教育力向上と小学校教育との連携

4 家庭と中学校教育 (ユラックス熱海 多目的ホール)

進路選択と学校・家庭の連携

5 健康安全教育 (熱海中学校体育館)

心身ともに健康な子どもを育てるPTA活動

6 特別課題I (ユラックス熱海 大会議室)

ノーマライゼーションの実現に向けた思いやりの心の育成
☆明治大学教授三沢直子先生に心の問題等についての提言をいただきます。

7 特別課題II (磐梯熱海スポーツパーク体育館)

幼・小・中・高の連携
☆現在福島県で推進している中高連携に関して県教育庁の守谷早苗先生に提言をいただきます。

1 組織運営 (ホテル華の湯 華青)
魅力あるPTA活動をめざした組織運営

【分科会(会場)・テーマ】

※七分科会全てパネルディスカッションを基本に進めます。

【会場】

郡山ユラックス熱海他四施設

【期 日】

平成十八年九月九日(土)・十日(日)

【大会主題】

ともに進もう PTA
「開拓者精神(フロンティアスピリット)」を胸に

講師：立命館大学大学教育開発支援センター教授

立命館小学校副校長

陰山 英男先生

百マス計算や漢字練習の反復練習を続け、基礎学力の向上に取り組み一方、そろばん指導やコンピュータの活用など新旧を問わず積極的に導入する教育法によって子どもたちの学力向上を実現している先生の講演が楽しみです。

【アトラクション】

喜久田小学校の児童によるマーチングバンドの演奏を予定しています。

【宿泊関係】

「第二次案内」のとおり宿泊市施設の申込みは、名鉄観光サービス福島支店にお願いします。なお、宿泊施設の割り振りは一任させていただきますようお願いいたします。

【事務局】

郡山市立富田中学校
〒963-8041
郡山市富田町字細田83の1
TEL 024(938)7521
FAX 024(938)7522



開拓者の群像(開成山公園内)
原野の開拓に身をささげ、安積開拓と安積疎水の開きを成し遂げた先人の開拓者精神を称えて...

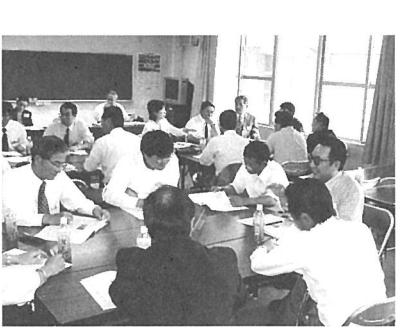
ないが万全な対応」等常に危機意識を持った素早い対応と学校・PTA・地域のネットワークの構築について実践を基に指導をいただいた。最後に、司会の結城母親委員さんから、「PTAとして、主体的な活動をしたい」とのまとめで会を閉じた。

【中学校部会の概要】
中学校部会は、小グループによるバズセッションが行われ、その後各グループ代表から、話し合いの概要が報告された。

小中共通テーマ「父親のPTA活動参加の現状」について、各単Pの情報交換がなされ、草刈りのような体力がある休日の活動は父親の参加、平日に多い授業参観では母親の参加が多くなる。そのため日曜日などに行事を開催し出席率を上げる工夫をしていることも報告された。夫婦で参加することも普通になってきたので、父親の参加にこだわらず家庭の中での父親の存在感が大切なのだと言う意見もあった。父親、母親ということよりも、「家庭」として機能することを大切にしていきたいとの願いがみえた。また、中学校になると小学校よりも学校任せになりがちであることを指摘した意見もあった。

父親が出席しやすい工夫や(日程のとり方や方法内容など)学校と相談が必要だが「父親」ならではの取り組みも考えられる。何よりも参加者の数や活動が広がることは、保護者にも子どもにも活気や安定感をもたらすことになるというまとめがされた。

中学校テーマ「委託事業「父親の家庭教育を考える集い」三年次の取り組みと今後の実践」について、十八年度



小グループ討議の様子

各都市P連の実施計画を基に計画や運営面の実践について情報交換をした。

二年間の実践を通して、限られた予算の中での運営方法の工夫や、講師の先生は自らの体験に裏付けられた話をする人が好評であったことが報告された。また、参加者が限られるのでどのように伝達して単Pにおろしていくか、参加させたい人をどのように引き込むかなどは、運営に共通する課題でもある。各地域や単Pの実態や実践例を基にした話し合いは尽きなかった。

各地域の事業への取り組みの今後の工夫と成功を確認しあった。さらに、「家庭の教育力」や「地域におけるPTAのあり方」についても触れられ、父親に限らず「家庭教育」について研修や協議を継続していく必要性も確認できた。また、子どもの安全安心、食育、家庭生活習慣、子育て、学習意欲、キャリア教育などについて国民的な関心事であり学校教育、社会教育での実践が求められているとの指摘があった。

PTA活動や運営についての意見交換が活発になされ、有意義な時間を過ごすことができた。

平成18年度 県P連行事予定

月	主 な 行 事	
6	評議員会①	7(水)
	小中学校別懇談会	19(月) 午前
	理事会・常置委員会①	19(月) 午後
7	役員・総務委員会合同会	12(水)
8	日P研究大会みやぎ大会	26(土) ・27(日)
	郡市P母親代表者懇談会	18(金)
	理事会・常置委員会②	31(木)
9	東北P研究大会郡山大会	9(土) ・10(日)
11	県教育長との懇談・要望	日時未定
	県議会各派への要望	〃
1	理事会・常置委員会③	25(木)
2	評議員会②	15(木)

※会報発行は、7月、12月、3月の3回の予定です。

安全互助会から

福島県PTA安全互助会は、平成十八年度の募集案内・入会手続きの時期、方法等を変更させていただきます。

万が一、事故が発生したら

① 学校に連絡してください。

変更にあたっては、前年度からお知らせしてきたところですが、十分ご理解いただけないところがあり、一部ご迷惑をおかけいたしました。次年度は、今年度の反省を踏まえ、スムーズに加入手続きができるようにしていきたいと思



② 学校管理下外(ただし登下校を含む)の事故に対しての補償となるため、保護者からの連絡を受けて手続きをすることになります。けがや賠償事故が起きてしまつたら、まず担任の先生に連絡してください。各学校には、担当の先生がおりますので、その先生を通して安全互助会に報告されます。

③ PTA会員の事故の場合

PTA主催・共催の事業に参加しての事故に限定されます。なお、自宅を出て帰宅するまでの間も含まれます。見舞金などの申請にあたってはPTA主催・共催事業であるという関係書類の添付が必要となります。

② 事故報告書はFAXで
報告書には、「傷害事故報告書」と「賠償事故報告書」の二種類あります。
FAXいただいた報告書を見て、該当の有無や必要な手続き等について回答いたします。それに基づいて申請事務を進めます。

入会申し込みの流れ

入会案内	1月20日頃、各単Pへ送付予定
申し込み	3月10日(4月1日で契約、補償開始 其後の人数の変更は、5月1日まで報告) ※加入コースは、この時点で決定願います。
会費納入	5月末日(会費納入をもって、契約完了となります。)
補償期間	4月1日～翌年3月31日 ※5月末日までの会費納入をもって、4月1日からの補償となります。



編集後記

「早寝・早起き・朝ごはん」を国民運動として展開していこうという動きはご存知のことと思います。

福島県教育委員会でも、「ふくしまの教育七つの約束」の実現には、子どもたちの望ましい生活習慣の形成が欠かせないとしています。あいさつ・読書・家庭学習の習慣・規則正しい食事等、各家庭の協力によるところが大きいのです。一つでも二つでも実現可能なところから、親子で努力してみたいかがでしょうか。(T・H)

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険株式会社

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3023